

検討テーマ：「地域の実状に応じた防災訓練のあり方について」

(○：前回までの意見、■：今回出た意見、●：市長の発言)

	課題	方策
防災訓練	<p>○中学生は地域の戦力になる。スタンプをもらいに参加する子も多いが、訓練では具体的に何をするのか、どんな働きをするのかまで考えていくことが課題。</p> <p>○第一次避難所の見直し要請があった。これから防災会議で検討予定。</p> <p>○現在、避難経路は車通り。危ないので通学路を避難経路としていきたい。</p> <p>○防災倉庫5箇所を定期的に各組で点検し、可搬ポンプを稼働することになっているが、徹底できていない。</p> <p>○現状、粉消火器は使用不可。また防火水槽は地域に汚水が出るのでホースを使用した訓練はできない。</p> <p>■梅名地区は、避難所は中郷小だが訓練は中郷西中学校で実施。多くの人が本来の避難所の把握ができていない。</p> <p>■現在要援護者の対策は協議していない。</p> <p>■要援護者リストの中に載っていないが、支援が必要な高齢者も多数いるのではないか。</p>	<p>○数年前から中学生も訓練参加。今年は中学生だけのブルーシートを作り、他と同様に進行して三角巾等の訓練を実施したい。</p> <p>○防災訓練と運動会を同日開催。町民の熱心な参加協力がある。</p> <p>○極力マンネリ化しないようプログラムの内容を変えている。</p> <p>○公民館にAEDの設置を検討。</p> <p>○名前だけの自主防災OB会名簿を見直し、一度集合して防災意識の向上を図りたい。</p> <p>○民生委員と協力し、誰が一番先にどこへ行くかまで考えたい。</p> <p>●町内で中郷小（避難所）へ行く訓練・機会がつかれないか。例えば防災訓練を中郷小集合後、中郷西中へ移動して実施する。</p>

(○：前回までの意見、■：今回出た意見、●：市長の発言)

	課題	方策
地域と小・中学校の連携	<p>○地域の方々に子どもたちを知ってもらい良い機会なので、子どもたちにはそれぞれの地区の行事に積極的に参加してほしい。</p> <p>○地域の方に学校支援をして頂きたい。また学校でも地域とよく話し合い、学校と家庭と地域で子どもを育てていく。</p> <p>○梅名と安久は、子ども会がない状況。小学生を募るには小学校の協力がないと、集まらない状況。</p> <p>○町内行事に参加する子供は少ない。</p> <p>○親の都合や役員が嫌などの理由で、どんどん子ども会がなくなっている。</p> <p>○南部方面は子ども会が少ない。各町内で子ども会ができることを願っている。親も大変なことはわかるが復活してくれると良い。</p>	<p>○昨年度から中学校区の7町内会で「地域連絡会」を設立。各会長と防災だけでなく、学校や生徒の様子などの情報交換も行っている。</p> <p>○中学校から課題を出され、解決に向けた話し合いが出来た。地域と学校の意思疎通や協力は大事。</p> <p>○顔見知りになる、接点を持つことが重要。</p> <p>○校区祭、ドッジボール大会などの集団行動が、防災やきずなづくりにつながる。</p> <p>○東日本大震災後、中学生の意識を高めるため防災訓練参加を呼びかけてきた。中学生の参加は運動会を含め増加傾向。小学生も多数参加。</p> <p>○町内会長、民生委員、PTA含めて育成会の中で体制を作り、夏休み行事を企画。地域の各組の方が動いてくれれば次第に活動も広がる。</p> <p>○安久は4年前に子ども会が消滅したが、なんとか「子どもクラブ」を立ち上げた。</p>

(○：前回までの意見、■：今回出た意見、●：市長の発言)

	当面の取組み	取組みの担い手／アイデア
防災訓練	<p>■今回初めて女性消防団員を派遣してもらった（主に三角巾や担架担当）。女性や子どもにたいへん好評だった。市は女性消防団員を増やして、もっと活用してほしい。</p> <p>■マナーでも積み重ねになり、災害の対応力が身につく。チェーンソーや発電機など使える方も多い。</p> <p>■小学生や高齢者の参加は多いが、本当に参加してほしい30～40代は少ない。30～40代が訓練に参加する方法を考えたい。</p> <p>■最低一軒から一名は訓練に参加するように促している。</p> <p>■昨年の要援護者リストを参考に、自主防災会・民生委員と具体的な行動について協議中。</p>	<p>■女性として、男性とは別の視点からできることがあると思う。それを誰がどうやってやるのか話し合いができるといい。女性だけの防災会議開催などが考えられる。</p> <p>●女性の役割が非常に大事。市では女性の意見を地域防災計画改定に活かす取組みを実施。</p> <p>●ぜひ中郷西中で避難所運営訓練を実施し、女性の意見も訓練等に取り入れてほしい。中島の取組みが参考になる。</p> <p>■運動会と訓練同日実施は非常に集まりがよく、効率がいい。</p> <p>■小さな子ども達が運動会に参加することで、同時に30～40代の親世代の参加を促す可能性がある。</p> <p>●災害時、要援護者を誰がどうやってサポートするか決めておくことが重要。芙蓉台や大社町、中島の取組みが参考になる。</p> <p>■八反畑町内会では、昨年と今年のリストの対象者を照合し、全70数名を地図上で把握。訪問し現状も把握。笛も渡している。</p> <p>■八鶴悠和会では今年から誕生日会を実施。欠席者に誕生日のお祝いを渡しに行くことで、出てこない高齢者の状況を把握している。</p>

(○：前回までの意見、■：今回出た意見、●：市長の発言)

	当面の取組み	取組みの担い手／アイデア
地域と小中学校の連携	<p>○町内行事への参加者を増やす。</p> <p>■地区防災会議で各地区訓練日程を事前把握し、生徒達には放送で参加を呼びかけている。訓練参加証を配布し、地域の方にサインをもらう取組みを実施。参加した生徒の感想を地域に配布し、参考にしてもらった。</p> <p>■地域間で訓練日程を調整するなど、中学生が防災の担い手として活躍できる環境を整える。</p> <p>■北小の防災学習の公開授業に参加。どの学年も防災意識が高まる取組みをしていた。参考にしたい。子どもの防災への取組を保護者も知る機会があれば、防災意識向上に効果的だと感じた。</p> <p>■運動会＋防災訓練は参加多数でも、防災訓練のみだと小学生の参加は少ない。訓練に積極的に保護者が参加すれば小学生の参加も増加する。</p> <p>■小中学生に三島市子ども連絡会のジュニアリーダー育成に参加してほしい。</p> <p>■梅名では自治会・健全育成会が子ども会の役割を果たしている。</p> <p>■安久ではボランティアで子どもクラブを立ち上げて活動しているが、資金不足。</p>	<p>○親は自分の都合により情報を遮断する。学校を通じ、チラシをまず子どもに見せ興味引かせ、子どもから親を誘わせる。</p> <p>■中学生は部活のため訓練に参加しにくい状況がある。中学校としては全地区同日開催が希望。</p> <p>●12月はじめの日曜日は地域防災の日。長伏が大々的に訓練実施。中学生は部活がシーズンオフで参加しやすい。</p> <p>●子ども会が活発なところは廃品回収等で活動費を稼いでいる。</p>